

未来に伝えたい昭和30年代の遊び！

新しい時代の始まりに・・・

年号が変わります。平成に次ぐ新しい時代の始まりです。(本日発表！)
新しい時代を迎え、いよいよ自分が生まれ育った「昭和」は遠くになってしまいました。これを機会に、新しい連載を始めます。
テーマは、「未来に伝えたい昭和30年代の遊び」です。
(※時代が逆行するようですみません・・・)

まずは、調べたい、連載しようと思った動機から。

主な動機は、次の三つです。

①親しい友人たちとの酒宴の場で、昔やった遊びの話で盛り上がりました。ところが50年以上も前の話で、記憶にうっすらと霧がかかり、遊びの名前や遊び方、ルールなどがあいまいでした。まだ、間に合いそうです。かかった霧を吹き飛ばし「懐かしい遊びを、すっきりと思い出したい。」これが第一番目の動機です。

②図書館から借りた「かくれんぼができない子どもたち」という本を読みました。そこには、本質は昔も今も変わらないのに、取り巻く環境が劇的に変化したために、社会性を奪われ孤立化・個別化を深めていく子どもたちの姿がありました。当然、おちかっ子も例外ではないでしょう。現代っ子は、興味を示さないかもしれませんが、「じいちゃんたちは、こんな遊びで楽しかったぞ。」と伝えたいと思ったのが二つ目の動機です。

③私自身、いい時代(とき)に、いい場所(おちか)で、子ども時代を過ごしたと思っています。何にもない・・・テレビもゲームも、ファミコンもパソコンも、ケイタイもスマホもない時に、野山や海や磯で、田畑やため池や未舗装道路で、近所のアンちゃんたちにいろんな遊びを習い、みじょがられ、ももぐられたことが今となってはどれだけ幸せなことだったか・・・そして、遊びを通して学び、身につけたものが多くあり、その後の人生にいかに役に立ったか・・・そんなことを町民の皆さんとともに考えてみたいと思ったのが三つ目の動機です。

おことわりとお願い

●遊びの呼び名や遊び方については、主に筆者の遊び体験と薄れかけた記憶、身近な友人たちに聞いた内容に元づくものなので、勘違いや思い込みが含まれている可能性があります。また、コメントについても、独断と偏見に流れてしまったものもあるかもしれません。「アヨ。おるとんね、こげん呼びよった・・・あそぼった・・・。」という声を、あるいは「これ、こうゆうこつじゃなかつな・・・」「こげな遊びもしよったぞ。」というアドバイスをぜひお寄せください。

・・・とここまで書いて帰ろうとしたら、センターの前で昔懐かし「竹鉄砲」で遊んでいる子どもたちがいました。しかも、弾(たま)は昔と同じ「イヌビワ」の実。聞くと「じいちゃんに作ってもらった」とか・・・やはり同じ思いの方がおるんだと嬉しくなりました。(笑顔)

さて、それでは連載のスタートは、この遊びから・・・。(来月号でお会いしましょう。)



仁義なき戦い② ネズミ編

「不思議じゃ。不思議が起こる。ヤウチ(我が家)のネズミは、空ば飛ぶ・・・」
生前父は、わけのわからぬことを、寝言のようにつぶやいていた。

「なーんの、ネズミン空ばとぼかよ。どっからか、ほーてきよっちゃろもん・・・」
私は、年寄りの戯れ言だと冷たくあしらっていた。

「イヤ、どげん考えてん、空ば飛ぶしか考えられん・・・この世の不思議ばい・・・」
ネズミごときに翻弄されている父を、滑稽にさえ感じていた。

3年前、故郷小値賀にUターンして、コメづくりを始めた。父に頼らず、自力でつくったコメは格別だった。愛着もあった。ところがコンバイン袋で大事に貯蔵しているモミを、ネズミからかじられた。モミばかりではない。新調したばかりのコンバイン袋を何枚もかじられ、穴だらけにされた。ため息まじりに、「アヨッコラヨ。ナシテや？」の連続だった。

ビール箱の上にコンパネを乗せ、その上にモミ袋を積み上げている。ネズミは登れない、届かないはずだ。なのにかじられた。周りの棚や壁からも、離れている。渡れるはずはない。なのにかじられた。何度もなんども、かじられた。この世の不思議だ。

「もしかしたら、もしかしたら・・・我が家のネズミは空を飛ぶのかも・・・？」
ネズミごときに翻弄され、ありえないことを考えてしまう滑稽な自分がいた。あの時の父と同じ姿だ。

お盆前後のあの猛暑の中で収穫した貴重なコメを、やすやすとネズミに食われてたまるか・・・コンバイン袋を丸ごと守るしかないと思い、厚手のシートでくるんでみた。しばらくは被害はなかった。福岡の孫の運動会で、家を3,4日空けた後だ。シートをかじられ、破られ、見事?に袋とモミをかじられていた。敵ながら、あっぱれだ。

これではもう追い出すしかないと思い、「ネズミ〇発退場」みたいな薬品を使ってみた。物置だけでなく、部屋という部屋、二階の天井裏、隠居、車庫・・・いたるところに、薬品を置き、一度に噴射させるくん煙剤だ。しかし、効果は数週間・・・戻ってきたのか、はたまた新たな住人か、再び、被害が出るようになった。

鼠殺剤を勧められたが、何処で行き倒れるかわからないので、今はネズミぺったんこ(粘着剤)を置いている。ところが、今年の夏以来十数匹捕獲したのに、一向に減った様子はない。それもそのはず、ネズミは三か月ほどで母親になり、一度に6～8匹の子どもを産むという。ネズミ講とは、よく言ったものだ。

ネズミさんとの会話？

夜寝ていると、天井をゴソゴソと動き回る音がする。天井を突いて脅かすと、しばらくは静かになるが、再びゴソゴソ・・・何か言いたそうだ。「同居する者同士、仲よくしよう。」ネズミ一家がそう言う。「同居を認めた覚えはない。」と私。「エサいっぱいこの家はい居心地いい。」とネズミたち。「トムとジェリーのジェリーは好いちよるばって、うんどんね好かん。」と私。好かんと言われて、黙り込むネズミたち・・・

ネズミたちとの終わりなき会話は・・・いやいやいや、仁義なき戦いは、これからもずーっとずーっと続きそうだ。(※いよいよ今年のコメづくりのスタートです。)

